

平和祈念の黙とう

広島と長崎の原爆投下時刻に1分間の黙とうを捧げます。また、終戦記念日には政府主催の「全国戦没者追悼式」にあわせ、正午に1分間の黙とうを捧げます。

【日時】 8月6日(木) 8時15分(広島)
8月9日(日) 11時2分(長崎)
8月15日(土) 12時(終戦記念日)
☎ 総務課 ☎ 22-0555

戦後70年特別展示

「千人針」や「鉄兜」など、町が所有する貴重な資料、戦時中の写真集や有名作家の戦争関連図書などを中央公民館に特別展示します。

【期間】 8月5日(木)～31日(日)
【場所】 中央公民館(赤池970番地3)
☎ 生涯学習課 ☎ 28-4100

戦後70年田川地区上映会

みずからも満州で過酷な体験をしながら、生涯を残留孤児たちの肉親さがしに捧げ、献身的な愛で支えた山本慈昭。その生涯をたどった物語を上映します。

【日時】 8月30日(日) 10時/14時/18時
【場所】 田川青少年文化ホール
※料金など詳しくは問い合わせください。
☎ 「望郷の鐘」田川地区上映実行委員会 ☎ 45-1122

あなたの家に眠る戦争の資料やその秘話を語り継ぎませんか？

70年という月日が流れ、いまの子どもたちは「戦争」について知る機会が少なくなっています。未来を担う子どもたちに、「平和」や「命の尊さ」を伝えていくため、教育委員会では戦前・戦中・戦後の生活の様子や戦争にかかわる資料、写真、出版物などの寄贈を募集しています。また、あわせて戦争当時の体験や記憶、次世代に残しておきたいというお話などもお寄せください。

☎ 生涯学習課 ☎ 28-4100



辻村 哲弥 教育長

終戦から70年目の夏に、平和についても一度考えてみませんか？

愛する人との再会を祈る
わらにもすがる強い想い

「どうか無事に生きて帰って…」で思っている口には出せなかった戦時中、出征する兵士のために作られたお守りが「千人針」でした。日清・日露戦争の頃に始まったとされる風習で、零下40度という極寒の戦場で使用した腹巻きに、さまざまな想

いが込められたと考えられています。「赤紙

(戦争への召集令状)

が届くと、48時間以内の徴兵が義務。その

の短い時間に、戦地

へと出向く子や夫・

兄弟のため、家族が

街角に立ち、女性一

人一人をお願いして、

赤糸で結び目を千

個作ってもらいまし

た。「千人力」「千羽

鶴」と同じで、千とい

う数が集まれば特別

な力を持ち、「弾よ

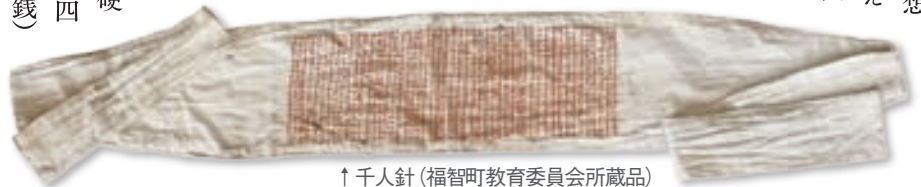
けになり、戦死をし

ない」と信じられ、さ

らに五銭・十銭玉の硬

貨を縫いつけ、「死線(四

銭)を越える苦戦(九銭)



↑千人針(福智町教育委員会所蔵品)

戦後70年特集「遺されたものたちの回顧」

戦禍の体験者は少なくなり、「戦争」は「物語」になりつつある。彼らの悲しみ、怒り、願いを、無言の「遺品」が今に語り継ぐ――。



愛する人の無事の帰郷を願った千人針などのお守りは、そのほとんどが終戦時に焼却・廃棄され、現存の資料は数少ないと言われています。



を越える」という語呂合わせのものや、「虎は千里を走り千里を帰る」との言い伝えから、寅年の女性に年の数だけ縫ってもらったものもありました。家族から兵士を戦争に送り出すことが、「お国のため」誉れ高いとされた時代。戦争に否定的な意見を口に出せば「非国民」として憲兵に捕まるような世の中でした。そんな中、信仰やおまじないにすがってでも、「あなただけは絶対に帰ってきて欲しい」という必死の願いや悲しみが、無言の「千人針」には込められています。

無言の遺品に込められた
遠いあの日の激情を継ぐ

「戦争を体験した兵士も、民間人もやがて姿を消す。その後、戦争を物語るのは無言のモノ(遺品)しかない」。そう考えた父・登巳男は、戦争の反省と風化する記憶を後世に伝えるため、昭和54年に、広島平和記念資料館などに次いでう番目、個人での設立は日本初となる「兵士庶民の戦争資料館(小竹町)」を自宅の庭に構えました。父はこの資料館で開館から平成14年に亡くなる直前まで、大半の時間をこの資料館内で過ごし、約3千の遺品を通して来館者へ戦争の悲惨さを伝え続



けました。父の死後、一時は閉館も考えましたが、父が訴え続けた「二度と戦争を繰り返してはいかん」の思いを引き継ぎ、全国からの来館者に遺品たちに込められた戦争の真実を伝えていきます。この資料館の特徴は、実際に遺品に触れることができる展示物が多いこと。鉄のヘルメットを被り、4kgの歩兵銃と30kgの荷物を背負い、堅い軍靴を履いて行軍する兵士たち。写真や文書ではなく、これらの実物を実際に身につけることで戦争を身体で感じ取ってもらっています。また、毎年

伊方小の出校日に行われる平和学習でも講師をさせていただくなど、無言の遺品たちが語りかける戦争への怒りや悲しみ、願いといった当時の人々の想いを多くの場で後世に伝えていきます。
遺されたものたちに宿る
「真実」を受け止めて――

INTERVIEW
兵士庶民の戦争資料館 武富 慈海 副館長

「戦争の品を実際に近くで見て肌で感じていただけるよう、館内の品は自由に触れることが可能です」と武富副館長。

休館 困・困
開館 9:00～17:00
入館料 無料
☎ 09496-2-8565 (小竹町)

めの時間は確実に少なくなり、わたしたちは今しか聞くことのできない貴重な体験に、目を凝らし、耳を傾けなければなりません。平和や発展があるのは、多くの犠牲や涙がこの大地に注がれたからこそ。その事実はこの先何年、何十年たっても変わりません。ぜひ皆さんも70年という節目に戦争の真実を知ってください。そしてできるなら、教科書だけでは伝わらない「重さ」を持つ遺品や戦争体験者の言葉を聞きに出掛けてみてください。きっとそこには平和への道しるべがあるはずです。